

STS フォーラム第3回年次総会

(2006年9月12日、京都)

声明

1. STS フォーラム第3回年次総会が9月10日から12日にかけて開催され、世界の70の国・地域・国際機関から約600名の一流の科学者、政治家、ビジネスマン、オピニオンリーダーが一堂に会した。安倍官房長官は日本政府を代表して基調講演し、科学と経済と政治との間の対話と協力の重要性について言及するとともに、知と富と権力の適切な融合が社会への貢献にとって重要であると述べた。科学技術の光と影に関し、人類の将来という観点から活発な意見交換が行われた。議論の主なポイントは以下のとおりである。
2. 人類にとって、経済活動と環境保護を両立させることによって持続可能な発展を実現することは重要である。我々は気候変動に対し行動することの重要性と温室効果ガスの削減の必要性を認識するが、京都議定書を越えて、米国、中国、インドを含む全ての国が参画するような新たな現実的かつ効果的な枠組みの構築を望む。
3. 我々はエネルギー効率の急速な向上と代替エネルギー源の一層の開発が重要であると信ずる。我々はまた、厳格な安全確保と核不拡散体制の下、核分裂エネルギーの活用が一層重要な役割を担うべきであると認識する。さらに、将来を見据え、核融合の開発、実現に向け投資していくことは重要である。
4. ライフサイエンス分野は、特にポストゲノム時代の今日、知的財産の保護、データの共有、倫理に関し、多くの機会と課題とをもたらしている。我々は、基礎研究への投資を増加させ産学の研究のインセンティブを維持していくことの重要性を認識するとともに、共通の国際ルールや標準を策定し、世界の全ての研究者がその研究活動において協力し合えることが重要であると認識する。
5. 我々はエイズや鳥インフルエンザ、マラリア、結核といった感染症に対するワクチンや治療方法の開発が人類の将来にとって不可欠であり早急な行動が必要であることを認識した。加えて、医薬品配分と情報交換のためのインフラ整備が必要であり、また、将来の感染症の世界同時大流行への準備も必要である。

6. 我々は増加する人口に対処するため、作物生産を増加させるべきであると認識した。特に食料と水が不足している発展途上国における食品安全を向上させるべきであり、また、水質浄化や海水淡水化といった技術を活用できるようにしていくことの必要性について認識を共有した。
7. 我々は情報通信技術の更なる進展が人類の将来の繁栄のために必要であるとの合意に達した。我々は今日のオープンなグローバルネットワークが知識基盤社会の形成という点で大きな価値を持つとの合意に達した。ネットワークの脆弱性を低減させることとプライバシーを確保することは極めて重要である。科学関連情報へのアクセスは重要であり、可能な限り完全なものとするべきである。
8. 科学技術は途上国の効果的な社会的、経済的発展にとって不可欠であり、共同研究や人材育成といった形態での科学技術面での国際協力を一層推進することの重要性を認識した。開発投資のうちの幾らかはこうした目的のために配分されるべきである。
9. 多くの参加者は、グローバルで統合された知的財産権システムの構築に向けた検討を開始するとの構想を支持した。
10. 大学は教育という第一の使命に加え、産学連携によるイノベーション創出を通じて経済発展に貢献するという重要な使命を担うべきである。したがって、我々は、大学における研究環境の改善と制度改革の推進の必要性について合意した。また、科学技術分野の女性研究者の活躍推進の重要性についても合意した。
11. 我々はナノテク、バイオ、ICT といった分野での新たなブレークスルーの重要性にかんがみ、それが人類の利益のために効果的に活用されるべきであるとの認識を共有した。
12. 我々はまた、政治家とメディアとが市民の科学リテラシーの向上に重要な役割を果たしていることを認識した。数学と科学の教育を強化することも重要である。
13. これらの課題は短期間では解決が容易ではないが、我々は解決に向けた努力をあきらめてはならない。確かに科学技術は非常に発展し、我々は、あたかも人類が地球を意のままにコントロールできるものと考えがちである。我々は今後50年後、100年後の人類と地球がどのような姿になるかを真剣に考えなければ

ならない。科学技術は人類をコントロールすべきではなく、人類が科学技術をコントロールすべきなのである。科学者のみならず、政治家、ビジネスリーダー、オピニオンリーダーを含め我々全てが科学技術の問題を自分自身のこととして考えることが重要である。我々は本フォーラムが人種、国籍、文化によらず、人類の長期的な観点から科学技術にどう対処していくかについて意見交換する場として重要な役割を果たすとの認識に至った。

14. 我々は次回の STS フォーラムを 2007 年 10 月 7 日から 9 日まで京都で開催することを合意した。そのときにまた我々は一堂に会し、自然と調和した人類のより良い未来に向けた新たな知を涵養するため、科学技術の光と影を理解していくという挑戦を続けていくこととする。